

患者の皆様へ

平成 30 年 2 月 1 日

呼吸器外科

現在、千葉大学医学部附属病院呼吸器外科では、肺癌の手術前後での呼吸機能の変化に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では肺癌手術を受けられた患者様の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名「肺癌術後の呼吸機能に併存肺疾患が与える影響に関する研究」

2. 研究の意義・目的

早期肺癌に対して外科的切除術後が第一選択です。肺癌は喫煙が最大の危険因子であり、しばしば喫煙を共通の危険因子として、肺線維症や慢性閉塞性肺疾患（COPD）が併存することがあります。肺切除後の呼吸機能はその後の生活を左右する重要な要因であり、通常切除後の残存肺に該当する区域数に基づいて予測を計算し手術適応が決定される。COPD 合併肺癌症例では、術後肺機能が予測より良好であることなどが知られているが、間質性肺炎などの症例ではどのように呼吸機能に影響するかの報告はこれまでに無く、詳細は不明です。そこで併存肺疾患毎に術前後の肺機能検査、CT 画像検査を解析することにより併存肺疾患が術後呼吸機能に与える影響について解析を行い、術後肺機能の正確な予測を術前に行う方法の確立を探索します。

3. 研究の方法

肺癌に対し、2008 年 1 月から 2016 年 12 月までに手術を行った患者様の臨床情報（年齢、性別、現病歴、既往歴、喫煙歴など）、肺機能検査、画像情報を解析・検討します。

4. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づ

いて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院呼吸器外科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院呼吸器外科

医師 田村 創

043 (222) 7171 内線 5464